

令和4年度の研究構想とその取組について

1. 研究主題について

令和2年度より施行されている学習指導要領には、子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する柱として「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つが整理されている。そのことを受け、外国語の目標には「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を目指す」という内容が記載されている。生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

本校は、平成9年度から研究指定を受け、英語教育の研究に取り組んでいる。児童は、長年の英語研究の積み重ねから英語学習の基盤をもちあわせており、テレビ画面からの”How are you?”という英語での問いかけに”I’m fine, thank you.”と自然に反応したり、ALTが話す生の英語をそれほど違和感なく聞き取ったりすることができる。1学期末に行った学校アンケート、「英語学習は楽しいですか。」の質問には、約88パーセントの児童が「はい。」と答えていることから、英語に対する抵抗が少ないことが分かる。

中川小学校の英語の授業は、研究の歴史が長く、児童の積み上げもある分、長い時間対話をすることができる。一方で、対話が仕込まれたものと評価されることがある。そこで、学習した内容を教えてもらった順番で話すような「覚えた」英語を口に出すのではなく、目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら、相手の反応に合わせて自分の考えなどを話す力や、臨機応変に対応するコミュニケーション能力を身に付けさせたいと考えた。また、仲間とともに練習することはできても、一人で話す場面になると迷ったり自信

もてなかつたりすることから、英語を苦手とする児童もいる。そこで、3T（担任、ALT、VET）の役割を明確にし、支援の手立てを工夫しながら授業改善に努めたいとも考えた。

以上のように、学習指導要領の内容、これまでの中川小学校の研究の歩みと児童の実態などを踏まえ、研究主題を以下のように設定した。

2. 研究主題

主体的にコミュニケーションを図ることができる児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

3. 研究仮説

- (1) 他教科・他領域との関連を図り、児童の興味・関心に合った、ICTの活用も取り入れた実現可能なコミュニケーション活動を組み入れた単元・言語活動の工夫を行えば、主体的に学ぶ児童が育つであろう。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面・状況等に応じて意図的に言語活動を設定すれば、即興的に自分の本当の思いを伝え合うことができる児童が育つであろう。
- (3) 伝えたいことを伝えるため個に応じた指導・援助を行い、ICTを活用しながら一人一人に合った評価を行えば、自信をもってコミュニケーションを図ることができ、コミュニケーションの素地となる資質・能力を育成することができるであろう。
- (4) 仲間とのコミュニケーション活動を積み重ねていくことで、お互いのことを理解し、学び合いや認め合いができる温かい人間関係をつくり出すことができるであろう。

4. 研究内容

I 指導計画の工夫・言語活動の工夫

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現のために、他教科・他領域と関連を図った単元指導計画の工夫・改善
- (2) 一人一人の児童が主体的にコミュニケーションを楽しみ、自分の本当の思いを伝えることができる言語活動の工夫
- (3) 児童が学びの成長を実感できる支援と評価の在り方

II モジュール (FUN TIME) の工夫

楽しく参加でき、実践的な英語を体験できる FUN TIME の充実

III 交流活動の工夫

英語を使って自分の思いを伝えることができる交流活動の工夫

5. 実践例

I 指導計画の工夫・言語活動の工夫

研究内容(1) 主体的・対話的で深い学びの実現のために、他教科・他領域と関連を図った単元指導計画の工夫・改善

< 3年生 Let's Try!1 Unit 9 Who are you? >

この単元で児童は、自分で生き物のクイズを作り、その生き物の特徴や住んでいる所、好きなものなどについて質問をしたり応えたりしながら仲間と対話し、自分だけの生き物ワールドを作成した。この単元指導計画を作成する際、3年生理科「春のしぜんにとびだそう」、 「こん虫を調べよう」の2の単元と関連を図った。それぞれの単元で児童は、様々な生き物の色や形に注目して観察をしたり、昆虫の見つかる場所(居場所)や体のつくりを比較し、共通性や多様性を見つけたりする学習を行った。自分



の目で実際に生き物を観察したからこそ、英語の授業ではより主体的・対話的なコミュニケーション活動を生み出すことができた。

I 指導計画の工夫・言語活動の工夫

研究内容(2) 一人一人の児童が主体的にコミュニケーションを楽しみ、自分の本当の思いを伝えることができる言語活動の工夫

< 5年生 Unit 2 When is your birthday? >

この単元は、自分の誕生日について尋ねたり応えたりしながら、欲しい物について対話する単元である。それ自体が自分の思いを伝えることにつながる単元だが、本単元の出口の活動では、欲しい物について交流する際、「なぜそれが欲しいのか。」という理由も付け加えて話すように単元指導計画を作成した。出口の活動では、ただ欲しい物について話すだけでなく、理由を問うことで、「好きだから。」「習い事で使うから。」など、欲しい物について自分の思いを伝え合いながら、主体的にコミュニケーションを楽しむことができた。



I 指導計画の工夫・言語活動の工夫

研究内容(3) 児童が学びの成長を実感できる支援と評価の在り方

< 6年生 Unit 3 Let's go to Italy. >

どの児童も学びの成長を実感し、自己調整力を高められるよう、児童の実態に応じて ICT を活用したり、担任、ALT、VET で評価の観点を分けて価値付けたりしながら毎時間の評価を行っている。また、児童どうしの認め合いの時間を毎時間位置付け、継続的に行うことで、自身で伸びを振り返るこ

とができるようになってきている。学期末には、ICT を活用し、ペアで互いの姿を動画に撮ることを通して、自己の変容をチェックすることができた。このことは自分の伸びを確認するのに大いに役立った。



II モジュール (FUN TIME) の工夫

楽しく参加でき、実践的な英語を体験できる FUN TIME の充実

毎日の FUN TIME で、英語のシャワーを浴びることができるように考えられている。週1回の Show and Tell では、6年生が対話形式で紹介する「自分の好きなもの」を生放送で視聴することで、下学年もあこがれを抱き、そこで必要な英語表現が口をついて出てくるようになってきている。

Phonics の時間には ALT の発音を真似して言ったり、アルファベットや簡単な単語を読んだり、また、高学年には書く活動を取り入れたりして学習している。毎日10分間のモジュールを工夫して行うことは、英語の学習の仕方を身に付け、単語力の維持・向上を支える基盤となっている。



III 交流活動の工夫

英語を使って自分の思いを伝えることができる交流活動の工夫

オーストラリアの姉妹校、コーフィールド小学校との交流を今年度も継続して行っている。本年度、オンラインでの交流やサプライズの卒業メッセージを送るといった企画も予定している。

さらに、本校にある国際理解委員会や英語クラブでは、ALT も交え活動を

行っている。国際理解委員会では、FUN TIME で披露するクイズを考え、録画、放送をしたり、外国の文化の紹介を行ったりしている。

コロナ禍で活動が制限はされるが、英語の授業ではない時間にも工夫して活動を行っている。



6. まとめ

学習指導要領が実施され、3年目となった。主体的にコミュニケーションを楽しみ、自分の本当の思いを伝えることができる児童を目指して授業改善に取り組んできた。その成果を以下に示す。

- (1) 目的や場面、状況をはっきりさせて出口の活動に向かってレベルアップできるように指導計画を仕組んだことで、児童が目的をもち、積極的にコミュニケーション活動を行うことができるようになった。(主体的な学び)
- (2) 自分の考えや思いをもち、それを相手の様子を受け入れながら伝えるというコミュニケーション活動を行うことができた。(対話的な学び)
- (3) コミュニケーション活動を通して、「見方・考え方」を働かせ、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。(深い学び)

今後も、教科書を軸に、これまでの各学年の積み重ねを生かし、中川小学校らしさを大切にしていきたい。また、児童のコミュニケーションをしたいという願いを実現するために、目的や場面、状況等に応じて自分の考えを形成、再構築する言語活動の設定を継続して行っていく。そのためにも他教科との関連を一層図り、ICT の有効活用を進めながら授業改善を進めたい。

また、研究を通して、互いのことを理解し、学び合いや認め合いができるあたたかい人間関係を作り出していく力を身に付けていくことを目標に、これからも全職員一丸となって取り組んでいきたい。